

古来日本人が愛し、称えてきた「桜」。

その語源は、木々の芽吹きに先がけて咲く花（咲くーら）というシンプルな解や、サ…サガミ（田神）という穀物の霊、クラ…神の憑りつく所（座）から、穀霊の憑りつく神座、といった解釈などもある。

ふるさとの風
～卯月～

神都 古今 桜巡礼

一番)) 現在の伊勢では宮川堤が有名。

—お伊勢さんほど御大社はないが なぜに宮川橋がない—

明治時代まで宮川には橋がなく、多くの参宮者を舟に乗せて行き来していた。現在の宮川橋近くにあった渡し舟の着く所に風致を添えるために桜を植えたことから、「桜の渡し」と呼ぶようになったという。

二番)) 鹿海から朝熊の辺りにかけては、かつて桜木の里と呼ばれ、平安時代の『伊勢新名所絵歌合』にもでている。この絵巻はもと上下の二巻から成っていたが上巻は早く散逸し、今は下巻だけが残っている。「桜木の里」については、模本や『群書類従』などにより知ることができる。

—桜木里 春

左	めにかけてちかつくま、にしら雲の花になり行櫻木のさと	大中臣定忠
右	あさくまや神代より咲花をみて心そとまるさくら木のさと	荒木田尚良

三番)) 内宮の宮域林には「宿木桜」という銘木がある。樹齢約三百年の杉の木の真ん中から山桜の老木が着生しており、春ごとに見事な花を咲かせるという。普段は見ることはできないが、古くから知られていたようで、本居宣長も見物に訪れて歌を詠んでいる。

—来ても見よ杉にさくらの花咲きて神世もきかぬ神垣の春—

四番)) 旧豊宮崎文庫跡に栽植されているオヤネザクラ(御屋根桜)は、ヤマザクラの新種で花は始めから白く五弁。文庫創設を唱えた出口延佳郎の屋根に生じた苗を移したものであるという説と、外宮正殿の屋根に自然に根付いたものが栽植されたとする説がある。戦前の最盛期の頃は七十余株にも増えて名所になっていたという。

—桜さく豊宮崎の文庫にふみよむ人の聲かゝるなり— 佐佐木信綱

- 🌸 伊勢市史 第七巻文化財編 (伊勢市/編 伊勢市 L243/1/7)
- 🌸 神都名勝誌 巻四～巻六 (神宮司廳/編 皇學館大学 L243/シ/2)
- 🌸 伊勢神宮 知られざる杜のうち (矢野憲一/著 角川学芸出版 L174/ヤ)
- 🌸 増補 伊勢の文学と歴史の散歩 (中川埤梵/著 古川書店 L902/ナ)